

平成30年第17回

# 荒川区教育委員会定例会

平成30年9月14日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

平成30年荒川区教育委員会第17回定例会

- |        |  |  |
|--------|--|--|
| 1 日 時  | 平成30年9月14日   | 午後1時30分  |
| 2 場 所  | 特別会議室  |  |
| 3 出席委員 | 教 育 長<br>教育長職務代理者<br>委 員<br>委 員  | 高 梨 博 和<br>小 林 敦 子<br>高 野 照 夫<br>小 池 寛 治   |
| 4 欠席委員 | 委 員  | 坂 田 一 郎  |
| 5 出席職員 | 教 育 部 長<br>教育総務課長<br>教育施設課長<br>学 務 課 長<br>指 導 室 長<br>生涯学習課長<br>ゆいの森課長<br>地域図書館課長<br>書 記<br>書 記<br>書 記<br>書 記 | 阿 部 忠 資<br>山 形 実<br>平 野 興 一<br>小 堀 明 美<br>瀬 下 清<br>浦 田 寛 士<br>小 林 弘 幸<br>成 瀬 慶 亮<br>佐々木 希久子<br>小 川 綾 一<br>早 坂 利 春<br>宮 島 弘 江 |

( 1 ) 報告事項

ア 平成30年度夏季休業中の諸活動の結果等について

イ 区議会定例会・9月議会について

( 2 ) その他

教育長 ただいまから荒川区教育委員会第17回定例会を開催いたします。

本日の出席者数の御報告を申し上げます。本日、4名出席となっております。

議事録の署名委員につきましては、小林委員、高野委員、御両名にお願いしたいと存じます。よろしく申し上げます。

机上に5月25日開催の第10回定例会と6月8日開催の第11回定例会の議事録を配付してございます。次回の定例会で承認についてお諮りしたいと存じますので、次回までに御確認いただきまして、お気づきの点等について事務局まで御連絡をお願いします。

それでは、本日の議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。本日は、報告事項2件となっております。

まず初めに、「平成30年度夏季休業中の諸活動の結果等について」を議題といたします。

指導室長、説明をお願いします。

指導室長 それでは、「平成30年度夏季休業中の諸活動の結果等について」御報告を申し上げます。

まず中学校の諸活動の結果でございます。10校から報告がございました。運動部系が18、文化部系が8種類でございます。特に目立ったところで申し上げますと、尾久八幡中。1枚おめくりいただきまして、裏面でございます。尾久八幡中学校の卓球部でございます。こちら49回全国中学校卓球大会に出場いたしまして、まず予選リーグ通過ということで、優秀13校になりまして、その中から対戦して最終的に全国ベスト8ということで団体の中で受賞することができました。

また、一番下、原中学校。こちら吹奏楽でございますが、都大会で金賞ということになってございます。

次のページでございます。諏訪台中学校。こちらは個人ですが、民謡全国大会ということで、こちら民謡民舞少年少女全国大会コンクールで優秀賞、中学生の部でとった方がいます。

小学校の諸活動の結果でございます。9校から報告がございました。主に運動系が24、文化系が2種類ということでございます。

学校として取り組んだのは1校でございますが、第六瑞光小学校。金管マーチングバンド。都大会に出まして、金管マーチングバンドが部門で金賞。4位ということで、3位までが全国大会でございましたので、今回残念ながら都大会で終わりということでございます。そのほか、個人でクラブチームなどに所属している児童がそれぞれ活躍している模様が表にございます。第七峡田小学校の裏面のテコンドー全国大会でございますが、こちらで男子マッソギー35キロ級で優勝というお子さんがおります。

また、最後のページでございます。赤土小学校、バトンでございます。全国大会でドリルダンス部門で優勝をされている児童がおります。

簡単ではございますが、御報告は以上でございます。

教育長 ただいまの説明につきまして、御質問、御感想などいただければと思っております。

高野委員 すばらしい成績を収めてうれしく思います。心技体、一生懸命鍛えてくださることをうれしく思いますのと、一つ、赤土小学校のドリルダンスというのは何なのですか。初めて聞きます。

指導室長 集団でマ스ゲームのような、クロスしたりとか。

高野委員 日体大が得意とするあの。そうですか、わかりました。ドリルというのですね。

小池委員 尾久八幡中の吹奏楽が4年連続の金賞になったのですね。

指導室長 そうでございます。

小池委員 金賞とか、優秀賞とか、すばらしいことだと思いますけど、やはり参加するというか、できるだけこういうことに参加するように、生徒それから先生方もできるだけエンカレッジなさっていただきたいと思います。

高野委員 尾久八幡中、文武両道どうですか。かつて5年くらい前は全盛ですごかったですけど、最近どうですか。

指導室長 学習の方も頑張っております。以前までの学力調査の結果はまだ出ておりませんが、全体としては安定した学力を尾久八幡中学校は持っています。

教育長 逆に言えば、今までは八幡中だけが突出して学力が高かったのですが、ほかの学校が追いついてきたという形です。

高野委員 いいですね。

小林委員 この吹奏楽は、尾久八幡中がずっと頑張ってきましたけども、今回は原中も金賞ということで本当によかったです。

小池委員 六瑞小もね。

小林委員 そうですね。六瑞小もそうですね。金賞ですので、よく頑張っていると思います。

高野委員 大変うれしいことだと思います。といいますのは、夏休みにそれぞれ集中して、上手に時間を使ってやっているということで、とても頑張ってくれているということはどういうことだと思います。

小池委員 特にこの猛暑日の中で。

教育長 子どもたちは、こういったコンクールだけではなくて、夏の地域行事にもプラスバンドに出たり、またこれから秋の子ども祭りや地域のお祭りが控えていますけれども、そういうときにも積極的に地域行事にも参加していただいています。地域で子どもたちの演奏の

様子をお聞きいただける機会があるのではないかと考えてございます。

それでは、この件はよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 続きまして、報告事項のイになります。「区議会定例会・9月会議について」を議題といたします。それでは、阿部部長、説明をお願いいたします。

教育部長 今回、9月会議の一般質問でございますけれども、3人の議員の先生方から6項目にわたって、教育委員会に対しての質問がございました。

お1人目が町田高議員、自民党でございます。学校施設の老朽化対策ということで、「中規模改修の実施」。大規模に至らないそれ以前の中規模。雨漏り対策とかそういった中規模改修の実施。また、学校施設の建て替えや学校体育館、生涯学習センター、体育館の空調設備の設置についてです。答弁といたしましては、中規模改修につきましては、区内の小中学校は、建築後の経過年数が40年以上の学校が34校中23校になっており、学校施設の計画的な維持管理は喫緊の重要な課題となっております。区ではこれまで大規模改修を定期的を実施することで、学校施設の適正な管理に努めておりますが、大規模改修のみの対応ではその間に、部分的な劣化や破損が発生することが懸念されている。中規模改修については、こうした不具合を早期に解消するとともに、学校施設の長寿命化による財政支出の縮減にもつながり、大変効果的な方策である。現在、各学校施設の現状を適切に把握し、長寿命化を進めるため、「(仮称)荒川区教育施設個別施設計画」の策定に取り組んでいる。

教育委員会としては個別施設計画に基づいて、優先度に応じて、計画的に改修を行うことで、今後も良好な教育環境の整備に努めていく。

次に建て替えについてです。区内の学校施設には、既存不適格となる建物が多くあるほか、建て替えの際には多額の経費を要するとともに、代替用地や施設の確保といった課題がある。また、児童生徒数の推移に応じた施設の適正規模や適正配置を検討する必要があるなど、校舎の建て替えは計画的に行うべきであり、大変重要な課題である。教育委員会としては、こうした諸課題を踏まえ、鋭意検討をしていくといった内容です。

町田高議員の最後の御質問ですが、学校体育館等への空調設備についてです。学校体育館等への空調設備については、今年度4校でモデルとして設置し、空調効果等の検証を実施しており、学校関係者や体育館利用者からも高い評価をいただいている。教育委員会としては、31年度の夏休みまでの全校設置について、積極的に検討していくということでございます。

続きまして、菊地秀信議員。公明党です。一つ目が、語学力の向上を図るため英語検定

料の助成をするべきとの御質問です。3段目でございます。荒川区では全国に先立ち、平成16年度に小学校全学年で「英語科」を設置し、この前段のところは荒川区の英語教育への取り組みです。また27年度からは、3年間の文科省の「外国語教育強化地域拠点事業」の指定。また28年度からは2年間の東京都教育委員会の「英語教育推進地域事業」の指定。それから小学校ワールドスクール、中学校ワールドスクール。加えて再来年度から始まる次期学習指導要領を先取りした5・6年生において、年間70時間の英語科授業を今年度から先行実施していくといった取り組みをしているといった内容です。

最後の部分ですが、英語検定については、子どもたちが自分の英語力を把握し、英語能力向上に向けた意欲を高めていく上で大変効果的であると。現在各中学校で級別の参考書を揃え、自校を試験会場として提供することで、希望する生徒の受験料の低減に努めるとともに、検定合格者に対しては教育褒章を授与するなど、裏面でございますが、子どもたちの意欲を高め、努力をたたえている。また、東京都教育委員会では、今年度より3年間「英検I B A」として英語力の測定や学習成果の確認ができる取り組みを無償で始めており、早速中学校で受験の準備を進めている。今後も東京都の取り組みなども最大限活用しながら、検定料の助成についても他の自治体の実施状況等を十分に調査し、検討していくといった内容でございます。

次が、同じく菊地秀信議員で、知的書評合戦ビブリオバトルを小学校段階から導入すべきといった御質問です。ビブリオバトルは、自らの考えを聞き手に正確に伝わるよう表現することで鋭い言語感覚を養うとともに、国語の力を伸ばす大変効果的な活動である。また、読書体験を共有することで、読書活動がより豊かになるものと認識している。

下段の方に飛びますが、平成29年に改訂した荒川区学校教育ビジョンにおいても、「学校図書館を活用し、興味や関心を広げ探求する力を育む」ことを重点項目の一つとして位置づけており、子どもたちが読書活動を通して、思考力・判断力・表現力等を伸ばす教育の充実に取り組んでいる。

ビブリオバトルは、自分の好きな本を通して、主体的かつ論理的に考え、深い学びに結びつくものであり、荒川区の目指す教育の推進に大いに資するものと考えている。

一番下のところですけど、教育委員会としては、今後小学校でもビブリオバトルの魅力を広く周知しながら、学校図書館を一層活用し、子どもたちが読書に親しむ環境のさらなる充実に努めていくといった内容です。

最後、小林行男議員、共産党でございます。学校給食の無償化ということで、これまでも毎回のようには御質問いただいている内容でございます。

学校給食は、学校給食法により、給食に使用する食材に係る費用については保護者に御

負担いただいている。荒川区においては、就学援助における給食費の支給に加え、小中学校全校に年間の米飯給食の約3分の1に当たる量の米の現物給付をしている。さらに、東京都産の食材の活用や郷土食を取り入れた献立などを工夫した食育推進給食を提供する小・中学校に補助金を交付することで、給食内容の充実と保護者の負担の軽減を図っている。

学校給食を無償化するには多額の経費が必要であり、自治体独自の施策として実施するのではなく、国の施策として広域的に実施することが望ましいと考えている。

教育委員会としては、国の動向を注視しながら、引き続き学校給食の適切な運営に努めていくといった内容です。

以上でございます。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

今週から議会が始まっており、再来週には決算特別委員会ということで、より具体的かつ細かな質疑がなされる予定でございます。

小池先生、どうぞ。

小池委員 空調設備なのですが、体育館、いろいろな目的で使われますよね。いろいろな大会が開かれる。特に暑い夏、それから冬の寒さ。体育館はやはり暑かったり寒かったりするのですよね。それと緊急時の避難場所になっているものですから、空調はただ単についているというだけでなく、効率的にできないか。それをぜひ検討していただきたいというお願いです。

それからビブリオバトルというのは、一体何なのでしょう。

教育長 では、まず最初に体育館の空調について。

教育施設課長 ただいまこのモデルで4校、検証をしております。空調の効果がその中でしっかり出ているのか。あるいはその作動音であるとか、それから空気の流れはどのようなのかというのに加えまして、どういう形で行えば効率的にできるのかと。まさに、今、先生、おっしゃっていただいたところも見定めているところでございます。

それで、今、わかっているところによりますと、例えば作動を非常に強くすることを、まず最初の30分間にして、それから「中」にして、それから最終的には「弱」にするという形の中で、どうしたら効率的に冷えるのかといったところも今、検証の中である程度出てきておりますので、そうしたことを各学校にも周知しながら全校に向けまして、取り組んでまいりたいと考えてございます。

教育長 今もう夏から秋に向かってしまっているのですけれども、冬場の暖房機能もありますので、ぜひ今年度中に教育委員会として空調を御視察いただくということも予定させていただきたいと思っております。実際に先生方に御確認いただきまして、今、平野課長から申し上げ

たような風量がどうなのかとか、あるいはまた暖房効果は一体どうなっているのだろうかということも含めて、御確認いただく機会を持たせていただければと思っております。

それでは、次にビブリオバトルについて、指導室長、説明をお願いします。

指導室長 ビブリオバトルにつきましては、まず自分が読んだ本の中で一番好きな本を5分程度紹介しまして、質問を受けまして、それを何人かの人たちにやってもらいまして、聞いている方が「その本が一番読んでみたい」と思った方の本を選ぶと。そうすると何人かの方が発表したものの中で一番投票が多いのが勝ちと。その中で自分の人柄だとか、あと自分の感じたこととか、そういうものをみんなの前で紹介する中で、感じていただくという、知的にもまた思考の力にも大変役立つ、そういうものでございます。

教育長 区内の中学校を中心に授業の中でお互いに感想を言い合ったり、どの子がより深く読んでいるかと比較し合ったりしている授業をやっています。これも今後、授業の中で取り入れていただいた授業を、どこかの学年で見ただけのような形で企画していきたいと思えます。

そのほかございますでしょうか。どうぞ、小林先生。

小林委員 菊地議員の質問について、語学力向上のための英語検定料の助成は、英語教育を推進する点で、とてもいいと思います。ただ、検定料の助成ということになると、受験する生徒にメリットがある。それ以外の生徒はメリットがないということがあるかと思うのです。そのあたりどのように考えればいいのかをお伺いできればと思っております。これが1点目です。

それと2番目の知的書評合戦ビブリオバトルです。これは大学でもよくやっておりまして、読書活動推進という意味で、非常に効果的です。ただ、大学の方式から考えますと、かなり規模が大きいイメージがありまして、小規模校でやってもうまくいくのかな、また小規模校ですと、少し負担が増えるかなとも思われます。その点に関しまして御意見をお伺いできればと思っております。

教育長 指導室長、まず英検の助成についてお願いします。

指導室長 まず、英検につきましては、今、他区でも昨年度から始めているところがございますので、そのやり方としては、希望制で1人1回だけ助成するとか、そのようなやり方がございますので、荒川区としましては、その他区の方法をよく吟味しながら、検討させていただいて、どういうやり方が一番いいのかということを考えていきたいと思っております。また、英検の費用につきましては、級によってかなり開きがございますので、その辺の費用の面でも考えていきたいと考えております。

あと、ビブリオバトルの小規模というところで、まず小学校においては、このビブリオ

バトルの意義をとどめて本を紹介すると、本当にバトルになっているかということ、まだまだそんなところではなくて、その意義をとどめて自分の好きな本を新聞に書いてみて紹介するとか、ポップにあらわして自分の好きな本を紹介すると。そういう段階でございますので、小規模校にあってもそういう取り組みはできておるので、負担ではないかなという感じはいたします。

小林委員 わかりました。

教育長 大学入試の英語が英検など外部のテストを活用して、英語力を測定するというか判定するということになりそうなので、大学入試を見据えた形ではいいのかもしれないのですが、英語の授業そのものは、おっしゃられたように英語力を高めることが目的なので、英検の何級をとるということが目的ではありません。果たして子どもたちの英語力を高める上で最もいい方法は何かを考える必要がありますし、また通常の英語の授業と整合性をとらなければいけないので、英検ばかりに力を入れてしまうと、通常の英語の授業がおろそかになってしまわないかということもあるので、慎重に検討していきたいと思います。他の自治体でやっている状況があると、では荒川区でも取り入れてはどうかということがよく御質問されるのですが、十分効果を見極めたいと思います。

また、ビブリオバトルについても、授業の中の一貫としてやる分にはそんなに教師に負担はかかりません。ただ、学校行事としてやるということになると、規模だとか、先生御指摘のように「じゃあ、小規模校なんてそんなクラスでやっているのと変わらないじゃないの」となってしまいますので、これは教育委員会として全校にやりなさいよというよりは、各学校で学校指導の先生や国語の先生や校長先生、副校長先生が、どういった形でやったら子どもたちの読書力が身につくのだろうかということを御検討いただく一つの手法ではないのかと思います。

一方で荒川区全体としてビブリオバトルを通して何か子どもたちの読書力を高めていったり、若しくは子どもたちがこれだけ読書に力を入れているのですよということを広く区民の方たちにお示していくという意味では、学校公開週間ですとか、あるいはまたゆいの森でもやったりしているのですね。

ゆいの森課長 はい。年に1回ですかね。昨年も1回やらせていただきました。

教育長 そういった学校の枠を超えた形でやるということも、教育委員会としてもゆいの森側とも協調しながら連携しながら進めていければと思っております。

小林委員 そうですね。わかりました。

教育長 ほかによろしいでしょうか。

高野委員 今のビブリオバトル。これはやはり小論文コンテストと同じように、自分を表現

する一つの方法だと思えます。小論文コンテストとは表現の仕方が違って、自分の言葉で発表する。多くの人たちにこの本はこういう魅力があるのだと発表する機会は、十分、今の授業でなさっているように思えますし、すでに荒川区では個人を磨く教育方法としてなされていると思えます。ビブリオバトルは京都大学から始まったそうですが、自分の感想をみんなに押しつけるということではなく、感性を磨くため発表するようなものでしょうから、日常の教育方法が大切です。

教育長 ありがとうございます。学校側とも十分相談しながら、無理のない形で子どもたちの読書活動をさらに推進していく取り組みができればと思っています。

高野委員 もう一ついいですか。

教育長 どうぞ。

高野委員 英検のお金を補助するというのは、難しいチャレンジですね。1人1回とか決めないと大変だと思うのです。対象が全児童生徒となると、大きいですからね。慎重に検討して、推進していただけたら目標ができていいと思えます。

教育長 ありがとうございます。

高野委員 大学受験も使うのでしょうか、合格しているといろいろな意味で大切です。

小林委員 そうですね。今後、入試で英検を活用といわれていますので。

小池委員 大学受験で取り入れていいという方向ですよ。

教育長 坂田先生が本日は御欠席なのですが、先日、別の御用事で区役所に来られたときに、教育委員会にお寄りになりました。その際に、今東京大学で大学入試に向けた検討をされていて、その中で坂田先生もかかわってさまざまな検討がされているのですが、とりわけ英語を東大の入試の中でどう取り扱っていくかということについて、議論がなされている。そして機会があったら、ぜひ教育委員会の中で、今後の我が国における英語教育について、先生方とお話をしてもいいかなということもおっしゃっていました。坂田先生と御相談させていただきたいと思えますけれども、教育委員会の一つの議題として坂田先生から問題提起していただいて、それを踏まえて、今後の小中学校における英語教育をどうしていくかということをぜひ先生方と御議論させていただければと思っております。

ほかにございませんようでしたら、本日の委員会はこれまでとさせていただきます。そのほか9月から11月までの教育委員会関係行事について、机上に配付させていただきました。御覧になっていただいた上で、事務局までお問い合わせ、若しくは御指示をいただければと思っております。

それでは、以上をもちまして教育委員会第17回定例会を閉会とさせていただきます。

了